

平成30年度

シラバス



3 学 年

北海道おとねっふ美術工芸高等学校

教科名	国語	科目名	国語表現	学年	3 学年
教材	教科書	国語表現 改訂版		単位数	4
	副教材	パスポート国語必携		履修区分	共通
学習の目標	1 話す・聞く能力、書く能力を総合的に育てます。				
	2 言語事項に関する知識、理解を深めます。				
	3 国語への関心・意欲・態度を育てます。				
学習の進め方	1 小テストを行う他、課題の提出があります。				
	2 グループ学習などを通じた言語活動で国語力を育てる他、国語常識の基礎を学習します。				
	3 相互作品鑑賞・添削をしたり、公募コンクールに応募します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○書いて伝える ○メディアを駆使する ○自己PRと面接	・国語表現の学習について ・整った文章を書く ・通信文を書き分ける ・志望動機をまとめよう	学習規律の徹底
		○表現を楽しむ	・詩歌を楽しむ	
		○声とコミュニケーション ○書いて伝える	・リーダーズシアターを開こう ・わかりやすい文を書く	コンクールへの応募
	5	○小論文・レポート入門	・小論文とは何か ・資料を読み取って書く	
		○表現を楽しむ	・魅力的なポスターを作ろう	〔中間考査〕ノート提出 コンクールへの応募
	6	○小論文・レポート入門	・発想を広げて書く	
	7	○表現を楽しむ ○声とコミュニケーション	・言葉で遊ぶ ・ショートスピーチをしよう	
		○会話・議論・発表	・プレゼンテーションの工夫	コンクールへの応募 〔期末考査〕ノート提出
	8	○会話・議論・発表		
9				
前期目標				
後	10	○メディアを駆使する	・メディアと情報 ・発想を広げて書く	コンクールへの応募
	11	○会話・議論・発表 ○表現を楽しむ	・議論して結論を出す ・演説合戦に挑戦	
	12	○小論文・レポート入門	・論文を書くために	〔学年末考査〕ノート提出
	1	○小論文・レポート入門	・論文を書くために	
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テストの成績、課題の内容や提出状況。 ・グループワークなど言語活動に積極的に参加しているか。 ・国語科の観点別学習状況の評価の4観点に立ち総合的に評価します。 	
評価の観点	【関・意・態】	・国語や言語文化に関心を持っているか。積極的に授業に参加しているか。
	【話・聞】	・自分の考えを論理的に述べたり、相手の考えを尊重し話し合っているか。
	【書】	・自分の考えを深め、目的や場面に応じた文体など表現を工夫しているか。
	【知・理】	・表現、理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字を身につけたか。

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	学年	3学年
教材	教科書	高等学校世界史A 新訂版(清水書院)		単位数	2
	副教材	高等学校世界史A 新訂版ノート(清水書院)		履修区分	共通
学習の目標	1 世界の歴史の基本的事項を当時の時代背景や日本の歴史と関連づけて理解します。				
	2 記述的知識だけではなく、歴史に対する多面的な視点を養います。				
	3 資料を読解・解釈し、それを思考・判断・表現する力を高めます。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に17・18世紀以前の、後期はそれ以降の歴史を学びます。				
	2 小論文課題とアクティブ・ラーニングを通し、思考力・判断力・表現力を高めます。				
	3 ワーク提出・小テスト・定期考査を通し、学習内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	○オリエンテーション ○ユーラシアの文明と交流	・東アジアの文明	※考査毎にワーク・ファイルを提出します。
	5		・南アジアの文明	・小テスト
	6		・西アジアの文明 ・東南アジアの文明	・中間考査 ・ファイル提出
	7		・ヨーロッパの文明	
	8	○一体化する世界	・ヨーロッパの新時代	・小論文I
	9		・ヨーロッパの主権国家と太平洋世界 ・革命の時代へ	・期末考査 ・ファイル提出

前期目標	
------	--

後	10		・国民国家建設に向かう欧米諸国 ・国民国家建設に向かう欧米諸国帝国主義と	・小テスト
	11	○現代世界と地球社会の歩み	・東アジアと日本の帝国主義下 ・急変する人類社会 ・第一次世界大戦と民族自決 ・第二次世界大戦の悲劇	
	12			・中間考査 ・ファイル提出 ・小論文II
	1		・冷戦期の世界 ・現代世界の歩みとその課題	
	2			・期末考査
	3		家庭学習期間	

後期目標	
------	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査・小テストの成績、ワークやファイルの提出状況、レポートやワークシートの内容、日常の授業への参加態度等で評価します。 ・地理歴史科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 【関意態】 歴史に対する関心と課題意識を持っているか。積極的に授業に参加しているか。 【思判表】 歴史を多面的な視点で捉えているか。レポートやALの表現方法・内容が適切か。 【技能】 資料を読解・解釈し、それを活用できているか。 【知理】 諸地域の歴史過程の基本的事項を身につけているか。

教科名	数学	科目名	数学A	学年	3 学年
教材	教科書	新編 数学A (東京書籍)		単位数	3
	副教材	ニューアシスト 新編 数学A (東京書籍)		履修区分	共通
学習の目標	1 場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深める。				
	2 場合の数と確率を事象の考察に活用できるようにする。				
	3 整数や図形の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。				
学習の進め方	1 前期は教科書の内容を中心に、集合、場合の数、確率を学ぶ。				
	2 後期は教科書の内容を中心に、整数のさまざまな性質や図形の性質を学ぶ。				
	3 週ごとに週末課題をワークから出して提出させ、学習習慣を確立しつつ理解を深める。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○集合と場合の数	・数学Aの学習について ・集合と要素の個数	*年間を通して小テストを行っていく
	5	○集合と場合の数	・数え上げの原則 ・順列	
	6	○集合と場合の数	・組合せ ・組分け	・中間考査 ・ノート提出
	7	○集合と場合の数 ○確率とその基本性質	・同じものを含む順列 ・事象と確率 ・確率の基本性質	
	8	○いろいろな確率	・独立な試行の確率 ・反復試行の確率	
	9	○いろいろな確率 ○整数の性質	・反復試行の確率 ・条件つき確率 ・約数と倍数、素因数分解	・期末考査 ・ノート提出
前期目標				
後	10	○整数の性質	・約数と倍数、素因数分解 ・最大公約数と最小公倍数	
	11	○ユークリッドの互除法と不定方程式	・除法の性質と整数の分類 ・ユークリッドの互除法 ・不定方程式	・中間考査 ・ノート提出
	12	○整数の性質の利用	・記数法 ・小数と分数	
	1	○三角形と比 ○三角形と比 ○円の性質	・三角形と比、三角形の重心・外心・内心 ・三角形の比の定理 ・円に内接する四角形、円と接線 ・接線と弦のつくる角、方べきの定理	・学年末考査
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テストの成績、週末課題やノートの提出状況、日常の授業への参加態度等で評価する。 ・数学科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価する。 				
評価の観点	【関・意・態】	数学の良さを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用しようとしているか。			
	【数学的見方】	事象を数学的に考察しようとしていたり、思考の過程を多面的・発展的に考えたりしているか。			
	【数学的技能】	事象を数学的に表現・処理する仕方や技能を身につけているか。			
	【知・理】	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけているか。			

教科名	理科	科目名	地学基礎	学年	3
教材	教科書	地学基礎		単位数	2
	副教材	新課程 リードLightノート 地学基礎		履修区分	共通
学習の目標	1 宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。				
	2 観察・実験を通して、地学的に探究する能力と態度を身につける。				
	3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解し、地学的な見方や考え方を養う。				
学習の進め方	1 教科書を中心に、地学についての基本的な原理や法則を理解します。				
	2 実験や観察を通して、科学的に考え、探究する力を身につけます。				
	3 プリントやレポートを通して自身の考えを表現する力を身につけます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄	
前	4	第1編 惑星としての地球	・太陽系の中の地球 ・地球の形と大きさ ・地球の構造		
	5	第6編 宇宙の構成	・太陽と恒星 ・宇宙のすがた	・小テスト	
	6			・中間考査 ・ノートファイル提出	
	7	第4編 移り変わる地球	・地層の形成		
	8		・古生物の変遷と地球環境		
	9	第2編 活動する地球	・プレートの運動とそれに伴う現象	・期末考査 ・ノートファイル提出	
	前期目標				
	後	10		・火山 ・地震と地殻変動	・小テスト
		11	第3編 大気と海洋	・地球の熱収支 ・大気と海洋の運動	
12		第5編 地球の環境	・環境と人間 ・日本の自然環境	・中間考査 ・ノートファイル提出	
1				・学年末考査	
2					
3					
後期目標					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査、小テストの成績、プリントの取り組み状況、宿題の提出状況、レポート等の表現力、実験・観察レポートの内容で評価します。 理科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。 				
評価の観点	【関・意・態】	宿題、提出物、レポートの提出状況。ノートファイルの整理。			
	【思・判・表】	ビデオレポートや実験レポート、プレゼンテーションの内容。			
	【技能】	実験・観察レポート。			
	【知・理】	定期考査・小テスト。			

教科名	保健体育	科目名	体育	学年	3学年
教材	教科書	現代保健体育		単位数	3
	副教材	ステップアップ高校スポーツ		履修区分	共通
学習の目標	1 体育活動をとおして、行動力と精神力を養います。				
	2 進んで運動に取り組み、公正、協力、責任などの態度を身につけます。				
	3 健康・安全に留意して運動する能力を身につけます。				
学習の進め方	1 3年生は体力テスト、体づくり、器械運動、水泳、陸上、球技、スキーを実施します。				
	2 基本的には一斉授業ですが、班活動による集団としての学習を推進します。				
	3 地域の特性を利用し、自然との触れ合いを通して健康、体力の保持増進を目指します。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○体力テスト ○体づくり運動 ○体育理論	・シャトルランによる体力診断 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・班づくりと準備体操づくり
	5	○器械運動 (選択)	・マット運動と跳び箱運動のいずれかを選択し、技能の向上を目指します。	・発表会の実施
	6	○野外活動	・豊かなスポーツライフの設計 ・散策	・前期中間考査
	7	○球技	・ソフトボール (捕、投、打の基本技能を習得し、ゲームを楽しみます。)	・ルールと審判法の習得
	8	○水泳	・平泳ぎの習得 (大きなストロークで泳ぐ)	
	9	○陸上運動	・長距離走 (トレッキング、ウォーキング ジョギング)	・強歩記録会の実施

前期目標	
------	--

後	10	○球技 ○体育理論	・バスケットボールとバレーボール (チームで作戦を立て、協力し攻守に取り組みます。)	・ルールと審判法の習得 ・技能テストの実施
	11			・後期中間考査
	12			
	1	○スキー	・安全に留意し、マナーを守りスキーを楽しみます。	・技能検査
	2			
	3			

後期目標	
------	--

評価方法	実技の能力だけでなく、運動に取り組む意欲や、公正、協力、責任などの態度、ルールや審判についての知識や技能などを、総合的に評価します。
------	--

評価の観点	【関意態】	・運動やスポーツに、積極的に取り組んでいるか。
	【思判】	・安全の確保に努め、仲間と協力して運動に取り組んでいるか。
	【知理】	・ルールや審判法について理解しているか。
	【技能】	・個々の基礎体力や各種運動技能が向上しているか。

教科名	外国語	科目名	英語表現 I	学年	3 学年
教材	教科書	PRODUCER English Expression I (スクリーンプレイ)		単位数	4
	副教材	Grammar Station 高校文法の標準トレーニング (いいずな書店) 英単語ターゲット1400 (旺文社) 改訂版 PRE Listening Box (啓林館)		履修区分	共通
学習の目標	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
学習の進め方	1 教科書をベースに、様々なタスクを通して学習した内容を用いて話す・書く練習をします。 2 ペア・グループワーク、ALTとの面接や様々な課題などで表現力を高めます。 3 ワークやプリントの提出、発表の機会を通して、学習内容の理解を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	考査等
前	4	オリエンテーション		※各Lessonの終了毎にワークに取り組みます。
	5	L1 Introductions and Questions	紹介と質問を英語で表現する	・小テスト ・プリント
		L2 Homes and Rooms	家と部屋について英語で表現する	
	6	L3 School and Clubs	学校と部活動を英語で表現する	・中間考査 ・ファイル提出
		L4 Family and Relatives	家族と親戚を英語で表現する	
	7	L5 Free Time and Frequency	自由時間と過ごし方を英語で表現する	・小テスト ・プリント
		L6 Movies and Entertainment	映画と娯楽を英語で表現する	
	8	L7 Food and Drink	食事と飲み物を英語で表現する	・小テスト
		L8 Shopping and Restaurants	買い物とレストランを英語で表現する	
	9	L9 Health and Fitness	健康と運動を英語で表現する	・プリント ・期末考査 ・ファイル提出
L10 Weather and Climate		天気と気候を英語で表現する		
前期目標				
後	10	L11 Sightseeing and Culture	観光と文化を英語で表現する	・小テスト ・プリント
	11	L12 Destinations and Directions	道案内を英語で表現する	
		L13 Departures and Arrivals	移動の出発と到着について英語で表現する	
	12	映画作り①	自主映画発表に向けて、構成、原稿など考える	・中間考査
	1	インタビューテスト 映画発表	インタビューテストとプレゼンテーションの発表をする	・インタビューテスト ・ファイル提出
	2			
3				
後期目標				

評価方法	・授業への積極的参加や態度、定期考査・小テスト、ファイルやプリントの提出状況等を総合的に評価します。協力してペアワークやグループワークに臨みましょう。 ・英語科の観点別学習状況の評価の4観点を基本として評価します。			
評価の観点	【関意態】	積極的な態度で言語活動に参加し、コミュニケーションを図ろうと努力している。		
	【表現】	事実や意見などを、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えられる。		
	【理解】	英語を聞いたり読んだりして理解し、情報や考えなどを的確に理解できる。		
	【知識】	英語やその運用について知識を身に付け、言語の背景にある文化などを理解する。		

教科名	美術		科目名	素描	学年	3 学年
教材	教科書	なし			単位数	1
	副教材	なし			履修区分	美術選択
学習の目標	1 対象のイメージや空間を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。					
	2 デッサンや鑑賞を通して、感性を高めるとともに、自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てる。					
学習の進め方	1 造形表現の基礎であるデッサンを繰り返し行い、技術を身に付ける。					
	2 様々な素材を組み合わせたモチーフをイメージの違いや空間をとらえながら描くことで、表現の方法を学ぶ。					
	3 作品を鑑賞し、描き方、良さを感じ取り、表現の工夫に生かす。					

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○観ること・描くこと ○線の表現力、トーンとタッチ ○幾何形体 GW中の課題（見て描く）	①指導計画と評価を理解する。 ②授業の約束を確認する。 ③道具の扱い等のおさらい。 ①線の種類や意味、描き方の基本を確認する。 ①野菜・くだものを課題とする。	・学習の見通しを持つ。 ・昨年度購入した道具を引き続き使用する。 ・線の意味と役割について理解し、表現に活かせるよう、反復が必要です。
	5	○幾何形体と静物の構成（陰影（影描法））	①単純な形態と静物の組み合わせによりの確に描く能力を身につける。	・形は粘り強く正確にとること。 ・面と空間を意識して描く。
	6	○面で描く（対象物の構造） ○空間と関係（包絡線、空間） ○色とパルル（統一感・マチエール）	①複雑な形態を単純な形に置き換えて描く練習を行います。 ①関係の作り方（大きさ、濃淡、重なり）の基本について、制作課題と講義により学ぶ。	・単純な形が描けないと、複雑な形は描けない為、各自復習をして、基本的な描写力を高めること。 ・空間（関係）の表現は、全体のバランスを壊さないこと。
	7	○構図と印象（パースペクティブ） 夏季休暇中の課題（身近なモチーフ）	①構図と印象について理解を深める。 ①別途指示内容を課題とする。	・適宜、制作している作品を相互鑑賞し、意見交流を行います。自分の癖や表現上の個性に気づき、修正の必要な点、伸ばしていく点に少しでも気づけるよう、他者意見に耳を傾けられるようにしましょう。
	8	○表現材料（木炭と鉛筆） ○人物画（骨格）	①それぞれの特長について、講義、実習形式で学ぶ。 ①上記の応用。	
期	9	○主題（何を見つめ、描き、伝えるか） 個別テーマ課題	①学んだことを活かし、課題作品の制作を通して総合的に学習する。	

評価方法	授業中の取り組みの様子と課題の提出、技術力により総合的に評価する。	
評価の観点	【関・意・態】	素描に関心を持ち、主体的に授業に臨むことができたか。
	【発想・構想】	対象物をよく見てとらえ、空間を意識して画面上に構成できたか。
	【技能】	デッサンの基本的な表現技能が身についたか。
	【鑑賞】	自他より感じたことや考えたことを言葉で伝え、制作に活かしたか。

教科名	芸術 (美術)	科目名	美術研究	学年	3
教材	教科書	なし		単位数	3
	副教材	なし		履修区分	美術選択
学習の目標	1 独自の技法を追求し、表現や鑑賞の視点を広げ、独自の表現力を身につける。				
	2 絵画の制作活動や鑑賞を通して、自己の視点と他者の視点を比較し、感性を高める。				
	3 ポートフォリオ作成をとおして自己の在り方生き方を見つめ、豊かな心情を育てる。				
学習の進め方	1 ポートフォリオを作成し、自身のこれまでの制作を振り返り、主題を設定します。				
	2 F100号サイズの絵画を制作し、自己の表現について発表します。				
	3 名作や自他の作品を鑑賞し、表現の特質、お互いの良さについて学びます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	○オリエンテーション ○構想	・1年間の活動について ・ポートフォリオについて ・キャンバス組み立て	※キャンバスの組み立て、キャンバス張りは一人で行わずお互い協力して行うこと。水張りも同様。 ※資料はインターネットや出版物に頼るのではなく、自分の力で集めること。 ・習作でしっかり主題や技法を練ること ・主題・制作の振り返りと今後の見通しについて
	5	○習作の制作	・資料収集、モチーフ取材 ・習作 (F100号に紙または小パネルに制作)	
	6		・主題設定、技法の検討 ・習作を発表・鑑賞	
	7	○習作発表 ○本制作	・下描き ・下地づくり ・彩色	
	8	○本制作	・ワークシートを活用し、今後の見通しを立てる。	
	9	○本制作		

前期目標				
後	10	○本制作	・ポートフォリオについて ・再検討 ・修正	
	11			
	12	○仕上げ	・細部描込み ・微調整 ・額つけ ・ポートフォリオ提出	
	1	○卒業制作発表準備 ○卒業制作発表	・卒業制作発表準備	・発表 ・鑑賞
	2			
	3			
後期目標				

評価方法	プリント提出状況、課題に対する創造力、技術力、授業への意欲・態度、計画性、発表内容等により総合的に評価します。		
評価の観点	【関・意・態】	自己の制作に向き合い、計画的に取り組むことができたか。	
	【発想や構想】	適切な主題を設定し、実現に向けた構想をねることができたか。	
	【創造的技能】	技法や画材の特性を理解し、設定した課題に効果的な表現ができたか。	
	【鑑賞の能力】	自他の表現の意図や工夫を感じ取り、味わうことができたか。	

教科名	工芸	科目名	図法・製図	学年	3 学年
教材	教科書	インテリア製図 (実教出版)		単位数	2
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 製図用具・ソフトを活用し、J I S規格に則り図面を作成する能力を養う。				
	2 図面を通して、自分の考えや情報を的確に表現し、伝える力を身につける。				
	3 卒業制作の構想をもとに図面を作成し、制作に向けての検討を行う。				
学習の進め方	1 構想をもとに、卒業制作の図面を作成します。				
	2 実習教科における製材や加工をもとに、改善点や修正点について検討します。				
	3 ポートフォリオやレポートを作成することで更に構想を深めます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄			
前	4	オリエンテーション	○年間指導計画・学習の心構え・評価方法について ○構想・スケッチ・略図をもとに実際に図面を作成します。 ○ドラフターまたはJ w - c a dを使用して外観図(第三角法)・部品図を作成します。	制作と並行して図面を作成します。図面をデザイン検討の材料にする、製材する寸法が変わったら図面も修正するなどし、有効に活用しましょう。 途中経過図面提出 「卒業制作」			
	5	図面作成 「卒業制作」					
	6						
	7						
	8						
	9						
	前期目標	計画的に課題に取り組む。 卒業制作の構想をもとに図面を作成し、制作に向けての検討を行う。					
	後	10			図面作成 「卒業制作」	○ポートフォリオを作成して3年間の制作を振り返ります。 ○レポートを作成してコンセプトから図面、加工に至る卒業制作に関わる制作過程をまとめます。	完成図面提出 「卒業制作」 完成提出 「レポート」 「ポートフォリオ」
		11					
12		ポートフォリオ作成 (美術コース) レポート作成 (工芸コース)					
1							
後期目標	授業の課題(卒業制作図面、レポート、ポートフォリオ)を通して自己の制作を振り返り学習のまとめをする。						

評価方法	図面の途中経過、完成図面の提出、ポートフォリオやレポート作成に至る過程での取り組みにより評価します。	
評価の観点	【関・意・態】	積極的に授業に参加し、意欲的に取り組むことができるか。
	【思・判・表】	見る者に対し解りやすい図面を作成するために適切な表現を行っているか。
	【技能】	これまでに学んだ事を生かし効率的に図面を作成できるか。
	【知・理】	ドラフターやJ w - c a d、図法について理解し、適切に作図ができるか。

教科名	工芸	科目名	課題研究	学年	3
教材	教科書	なし		単位数	4
	副教材	なし		履修区分	共通
学習の目標	1 工芸科目を通して学んだ技術を応用し、創造的に発展させた作品制作の力を育てます。				
	2 制作の過程を通し、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き、豊かな人間性を養います。				
学習の進め方	1 1年間をとおした制作の計画を立てます。題材は個々が設定し、工芸制作への知識と理解を深めます。				
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしていきます。				
	3 これまでの工芸科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄
前	4	オリエンテーション 制作計画	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の課題の進め方 ・制作に向けた試作と計画 ・構想、設計 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作課題をどのような手段で達成するかを考える。
	5	制作	<ul style="list-style-type: none"> ・縮尺模型、プロトタイプ ・再検討、実制作 ・木材移動、栈積み 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作の段取りを把握する。
	6			
	7			
	8			
	9	制作進捗の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・進め方の再検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する。
前期目標	<p>早期に制作物の決定、製材・加工に入るよう、心がけよう。 見通しを持った制作を心がけ、自ら取り組める作業量を見極められるようにしよう。</p>			
後	10			
	11			※ガラス等の発注
	12	1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の完成と提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの制作をふりかえることで成果を確認する。
	1	資料の整理 卒業制作発表	<ul style="list-style-type: none"> ・制作のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ※塗装を含めて完成 ・他者との学びを共有する。
	2			
	3			
後期目標	<p>他者と協同して作業進捗の遅れが出ぬよう、足並みを揃えて制作を進めよう。 制作をとおして学んだことや身につけたことなどをまとめ、発表時に伝えられるようにしよう。</p>			

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。				
評価の観点	【関・意・態】	制作課題の設定と計画をもとに制作を進めることができたか。			
	【発想・構想】	制作課題を自らの意図と繋がるように制作を考えていくことができたか。			
	【創造的技術】	制作課題に対しての技法、表現を深めていったか。			
	【鑑賞の能力】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができたか。			

教科名	工芸	科目名	工芸研究	学年	3
教材	教科書			単位数	4
	副教材			履修区分	工芸
学習の目標	1 選択工芸科目を含め、学んだ技術を総合的に応用、創造的な作品の制作を目標とします				
	2 制作の過程をとおして、造形的視野を広めるとともに、感性を磨き豊かな人間性の形成を目指します。				
	3 選択教科として密度のある専門性を高めた作品の制作を目指します。				
学習の進め方	1 1年間の制作計画を立てます。題材は個々が設定し、構想と基本的な設計を相談しながら進めていきます。				
	2 過去に制作された作品や書籍などの資料を活用し、自らの作品をより高める工夫をしていきます。				
	3 これまでの選択科目で学んだ知識や技術を積極的に作品に取り入れていきます。				

期	月	単元名	具体的な学習内容	備考欄		
前	4	オリエンテーション テーマの設定	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の課題の進め方 テーマの設定と計画 構想、設計 	試作		
	5	制作 中間発表	<ul style="list-style-type: none"> 縮尺模型、プロトタイプ プレゼンテーションの準備 	↓ 加工		
	6		<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション、再検討 実制作 木取り 製材 			
	7					
	8					
	9	制作進捗の確認	<ul style="list-style-type: none"> テーマと制作についての発表 進め方の再検討 		<ul style="list-style-type: none"> 自らの制作過程を振り返り進め方を再検討する 	
	前期目標					
後	10				↓ 仕上げ	
	11					
	12	1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 作品の完成と提出 	完成		<ul style="list-style-type: none"> 自らの制作をまとめることで成果を確認する
	1	資料の整理 卒業制作発表	<ul style="list-style-type: none"> 研究のまとめの制作と提出 キャプションの制作と提出 (図法製図と連携) 			<ul style="list-style-type: none"> 他者との学びを共有する
	2					
3						
後期目標						

評価方法	評価の観点をもとに計画の進め方、制作、制作資料から経過ごとに総合的に行う。	
評価の観点	【関・意・態】	自ら設定したテーマと計画をもとに積極的に制作を進めることができる
	【発想・構想】	制作の手順や方法を考えていくことができる
	【創造的技術】	テーマに対しての技法、表現を深め、形にすることができる
	【鑑賞の能力】	他者の取り組みや制作物を通し、自らの制作意識を高めることができる